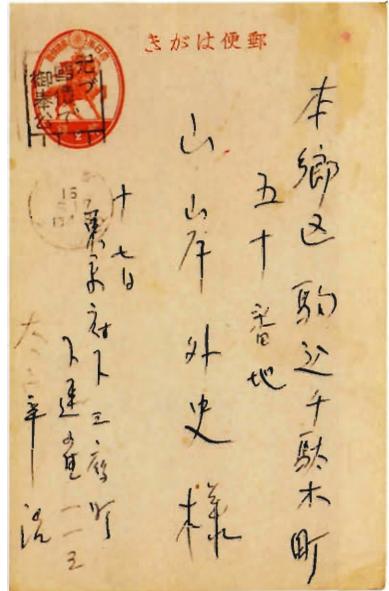


昭和16年(1941年) 6月17日(日にち直筆、消印)

押復。

(今秋、お力をして書くつもりのお説の題を、
「十字架」に「感傷」に「審判」の秋、自画像
などいろいろ考へておたしもうべしな。

お礼申し上げたい事もあるので
すけど、僕のはうから本郷へ行
くのが順序ですけど、まだ四、五日
は、家をあげられないうち
がして、たいへんすみませんけれど、
もし、お仕事一段落の折には、
三鷹へ遊びがえらう。ぶらりと
おいで下さいませんか。おれ
ゆつくりお話ししたいので。



拝復。

お話申し上げたい事もあるのですが、僕のはうから本郷へ行くのが順序ですけど、まだ四、五日は、家をあけられないやうな気がして、たいへんすみませんけれど、もし、お仕事一段落の折には、三鷹へ遊びがてら、ぶらりとおいで下さいませんか。

ゆつくりお話したいのですけど。

不乙。

（今秋、努力して書くつもりの小説の題を、「十字架」「感傷」「審判の秋」「自画像」などいろいろ考へてゐたところでした。）

【校異】

拝復〔全集〕 → 拝復。

あけられない気がして、〔全集〕 → あけられないやうな気がして、

〔不乙〕の位置、「おいで下さいませんか。』の下)〔全集〕

→ 「ゆつくりお話したいのですけど。』の次行)

(丸括弧、「今秋、」から「考へてゐたところでした。』まで)〔全集〕 → (丸括弧の頭のみ、「今秋、」から「考へてゐたところ

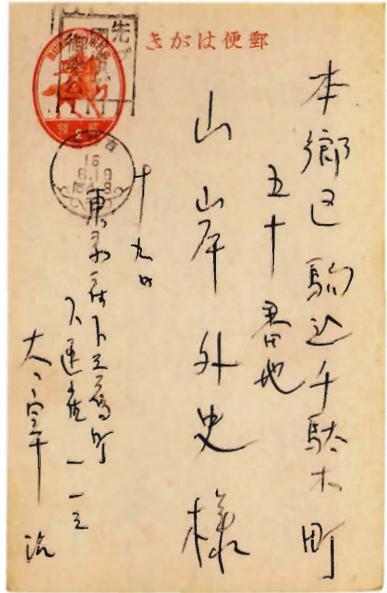
した。』の文の行頭に)

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

十七日 東京府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

昭和16年(1941年)6月19日(日にち直筆、消印)

け返事ありかたうございりました。イソップ
 遊滞の仕様子 おお察し申し上げます。
 たいへんおせう。
 さう、お話といふのは、兄の Heirat の日
 取り、それから場所、それから、なかうと等
 に就いては相談申したかつたのです。
 六月五日たかにも、井伏さんのお宅へ行つ
 て、ちよつと相談して来ましたけれど。
 いろいろ、きめたのです。私も、はるも、出立
 が無事にすましまして一段落になりました
 かし、これから兄のけ事に、南平心しよと
 因心つてゐるのです。二十五日頃にお逢ひ
 改しませう。赤子は、赤い顔をして眠つてゐます。



御返事ありがとうございました。イソツブ渋滞の御様子、お察し申し上げます。たいへんでせう。

さて、お話といふのは、兄の Heirat の日取り、それから場所、それからなかうど等に就いて御相談申したかつたのです。

六月五日だかにも、井伏さんのお宅へ行つて、ちよつと相談して来ましたけれど。

いろいろきめたいのです。私のはうも出産が無事にすましまして一段落になりましたから、これから兄の御事に専心しようと思つてゐるのです。二十五日頃に、お逢ひ致します。赤子は、赤い顔をして眠つてゐます。

井伏さんは、とても意気込んでゐますよ。

【校異】

イソツブ、〔全集〕 → イソツブ

お察し申し上げます。〔全集〕 → お察し申し上げます。

(改行なし) 六月五日〔全集〕 → (改行)

(改行なし) いろいろ〔全集〕 → (改行)

兄の仕事〔全集〕 → 兄の御事

【フート】

イソツブ——山岸外史訳『新イソツブ物語』(主婦之友社、昭和十六年八月)。

兄の Heirat——昭和十六年六月三十日、佐藤春夫夫妻の媒酌で鶯谷の料亭・志保原にて、山岸外史の結婚式披露宴を執り行う。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様
十九日 東京府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

昭和16年(1941年) 6月25日 [日にち直筆、消印]

昨夜は火風一たしおした。
 這ふやうにして、三鷹へた
 どりつきました。けさは、
 宿醉はおはたく、佐藤
 先生宅訪問は、明日に
 延期する事になりました。
 あしからず。明日またかみ
 なくさうする。そして、
 きめてしまひます。



昨夜は失礼いたしました。這ふやうにして、三鷹へ、たどりつきました。けさは、宿酔はなはだしく、佐藤先生宅訪問は、明日に延期する事に致しました。あしからず。明日ましがひなく参ります。そして、きめてしまひます

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様
二十五日 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

【校異】

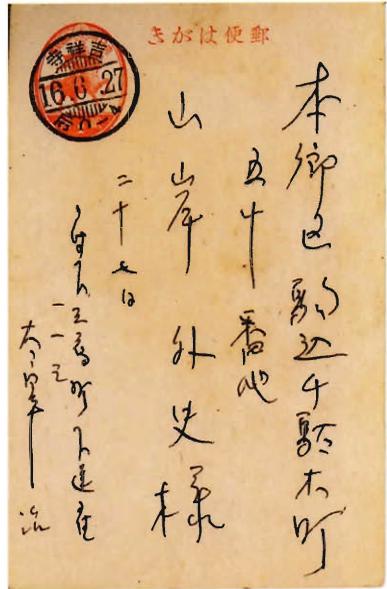
きめてしまひます。(全集) → ↓きめてしまひます

【ノート】

佐藤先生宅訪問——山岸外史の結婚式での仲人を依頼する件。

昭和16年(1941年)6月27日(日にち直筆、消印)

昨夜は快風だった。いましめ。
万中するし。下さ。井伏さんあ
運送かまぬ。す。二十九年
に兄が清水町へ。おらつしや
と都合よろしき日。あつしやつて
おますか。どうしますか。二十一日
の後なら。あるひは井伏さん。おらつ
しやうな。か。も。知。れ。な。い。で。は。そ。れ。は
兄の。内。都合。よろしき。様。に。決。定。下。さ。い。



昨夜は失礼いたしました。
 おゆるし下さい。井伏さんから速達がまありまして、二十九日に兄が清水町へゐらつしやると都合よろしき旨、おつしやつてゐますが、どうしますか。二十八日の夜なら、あるひは井伏さん、ゐらつしやらないかも知れない。でも、それは兄の御都合よろしき様に御決定下さい。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様
 二十七日 府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

【校異】

(改行なし) おゆるし下さい。(全集) → (改行)

いらつしやると(全集) → ゐらつしやると

いらつしやらない(全集) → ゐらつしやらない

御決定下さい。(全集) → 御決定下さい

【フート】

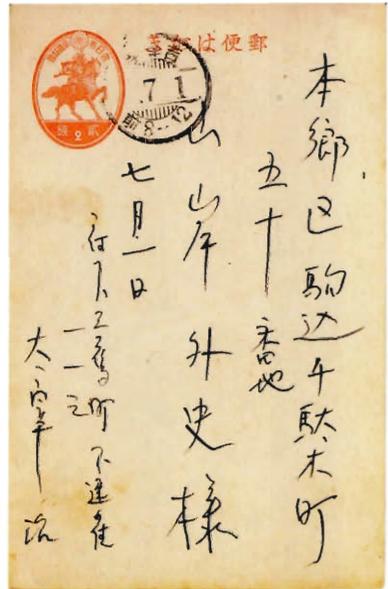
清水町——井伏鱒一宅。杉並区清水町二十四番地。

昭和16年(1941年) 7月1日(月)直筆、消印、年は推定

拝見。

昨後は、ほんとうにあめをたう。
野村君の書生なので、行きとどかす。
決りな申しあつたと思ひますか。
その笑は、どいかに至情にめんじて
おゆるし下さい。

人會計の一端にも、と思ひ五十円ばかり、
り、懐中して行つたのですけれど、それ
では、之は、こんど私たちが夫婦を
招待した時に、金部便はせてあげたい
ます。奥さんによろしく。
お仕事がつかりすんね頃には、ゆくり(印)へも
あそびにおいで下さい。



【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

どうか〔全集〕 → どうか、

それでは、〔全集〕 → それでは

奥さんに〔全集〕 → 奥さんに、

【フート】

昨夜——山岸外史、佐藤やすの結婚披露宴。太宰はその裏方を務めた。

拝啓。

昨夜は、ほんたうにおめでたう。野暮の書生なので、行きとどかず、失礼な事もあつたと思ひますが、その点は、どうか、至情にめんじておゆるし下さい。

会計の一端にも、と思ひ五十円ばかり懐中して行つたのですけれど、それでは之は、こんど私たちで御夫妻を御招待した時に全部使はせていただきます。奥さんに、よろしく。お仕事が、すつかりすんだ頃には、ゆつくり三鷹へもあそびにおいで下さい。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

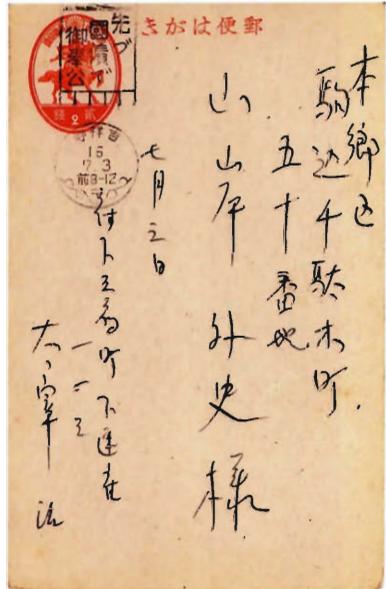
七月一日 府下三鷹町下連雀一一三 太宰治

昭和16年(1941年) 7月3日(月)日直筆、消印)

母後。

けいねいのけ手紙をいたたき、心づきまじ
た。過分のお返しで、いたみいりました。
私は、つまらぬ後輩です。これから見に、
何かと助けられて行く事と思ひます。

おつひの事は、兄のけ仕事次第
で、別におつひの必要も無...と思はれま
す。おつひにて回版を仲ばして、休息なさる
のも必要と思ひます。(ママ、ママと呼んで...)
と、おつひのけ手紙の一番箇所、眼を執くをりました。
本堂に、よかつた。兄のけ教育が、よかつたのですよ。
三つは、おつひでもよ一のりす。七八日おつひ。九、十日は
も、おつひの後で。佐藤井、佐藤先生へは、私から昨日
礼状を出して(お返しをました)。私、けいねいから、おつひ
匠者へ行きます



拝復。

御ていねいの御手紙をいただき恐縮しました。過分のお言葉で、いたみいりました。

私はつまらない後輩です。これから兄に、何かと助けられて行く事と思ひます。

三鷹へおいでの事は、兄の御仕事次第で、別においそぎの必要も無いと思はれます。家庭にて四肢を伸ばして休息なさるの必要と思ひます。(ママ、ママと呼んで……)といふ御手紙の一箇所、眼が熱くなりました。本当に、よかつた兄の御教育が、よかつたのですよ。三鷹へは、いつでもよいのです。七、八日でも、九、十日でも、もつと後でも。(佐藤、井伏両先生へは、私からも昨日礼状を出して置きました。)私は、けふから歯医者へ行きます

【校異】

拝復。(全集) → 拝復

脱文(「必要も無いと思はれます。」の後)(全集) → 家庭にて四肢を伸ばして休息なさるの必要と思ひます。

行きます。(全集) → 行きます

【ノート】

ママ、ママと呼んで……——山岸外史『人間太宰治』には「新妻ヤス子のことを先妻の三人の遺児が、すぐ慕ったということである」とある。

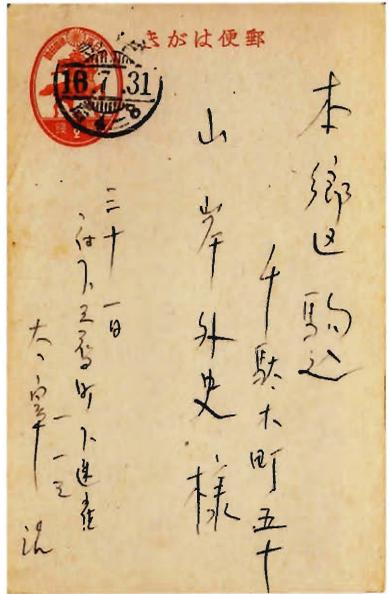
本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

七月三日 府下三鷹町下連雀一―二三 太宰治

昭和16年(1941年)7月31日(日にち直筆、消印)

梓後。

先日は、まことに快禮いたしました。
 また、このたびは、半紙を梓誦して、
 思はずニヤリと會心々微笑を禁じ
 得ませんでした。それにしても、それは
 又ひどかったですね。百足の後の快
 談(怪談)と書くつもりでしたのについ
 快談と書いてしまひました。来越
 の様式が全く、新形で、やはり新
 人らしい、爽快なものを感じました。
 いづれまた。興さきにまろしく。



拝復。

先日は、まことに失礼いたしました。また、このたびは御手紙を拝誦して、思はずニヤリと会心の微笑を禁じ得ませんでした。それにしても、それは又ひどかったですね。夏の夜の快談（怪談と書くつもりでしたのに、つい快談と書いてしまひました）乗越しの様式が全く新型で、やはり新人らしい爽快なものを感じました。いづれまた。奥さまによろしく。

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様

三十一日 府下三鷹町下連雀一三 太宰治

【校異】

拝復〔全集〕 → 拝復。

また〔全集〕 → また、

（脱文。「それにしても、」の後）〔全集〕 → それは又ひどかったですね。

（改行なし）いづれまた。〔全集〕 → （改行）

昭和16年(1941年) 8月26日(日にち直筆、消印)

はぶさた申して、おれりやす。

旅に出るは事するつもりで居りまし

た。故郷の老母が、おれん衰弱

してゐるとの事で、知人に連れられ

て、二つやり故郷へ老母にお返しに

行きます。十年振りでありました。

故郷のいろいろ故人にお返しに。おれ

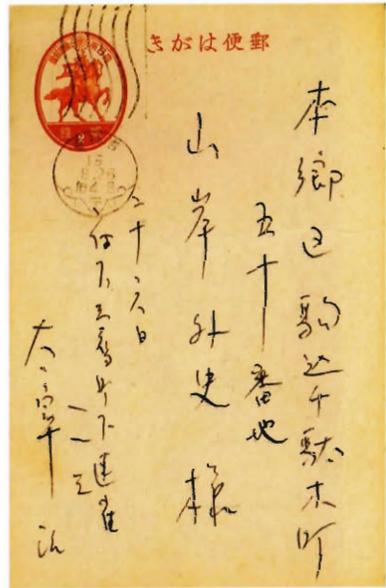
ん疲れて、昨日かへりやす。仕事

をこなせば、もうひとりの疲れの

おほり功第。また明日にでも旅に

出るつもりです。行先は、まだきまつ

て居りません。九月には、おれん



御ぶさた申して居ります。

旅に出て仕事するつもりで居りましたら、故郷の老母が、たいへん衰弱してゐるとの事で、知人に連れられて、こつそり故郷へ老母に逢ひに行きました。十年振りでありました。故郷のいろいろな人に逢ひました。たいへん疲れて、一昨日かへりました。仕事をしなければならぬので、疲れのなほり次第、また明日にでも旅に出るつもりです。行先は、まだきまつて居りません。九月には、また本郷へ遊びに行きます。

本郷区駒込千駄木町五十番地 山岸外史様

二十六日 府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

【校異】

あひました。(全集) → ありました。

【フート】

知人——北芳四郎。品川区大崎で洋服仕立て業を営む。津島家とのつながりから、太宰の東京での世話人となる。

こつそり故郷へ老母に逢ひに——義絶中だったため、叔母キエ宅に泊まり、母たねを見舞う。

昭和16年(1941年) 9月8日 [消印]

阿部

阿部のところでお留した記念の写真を送りました。お返しに、お礼の便りをお願いします。

昨日

旅行から

お帰り

しました。

ヤつと

と三枚

お借りして

お返しします。

今更

はもう

六枚

くら

の

お返し

は

お返し

世情

かき

び

しく

やう

で

お

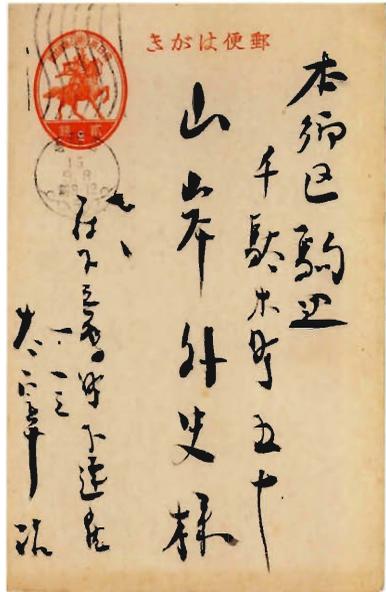
返し

ふり

ま

は

お返し



拝啓、

昨日、旅行から帰りました やつと三十枚書きました
 今月はもう六十枚くらの書かなければいけません 世情が
 きびしくなつてゐるやうで書くのもくるしくなりました、
 いづれ御伺ひいたします

阿部のところで写した記念写真、出来て来ました。阿部と、
 それから阿部の細君から、貴兄によるしくと言つて来まし
 た。写真そのうちおとどけます。それから、先夜、蛇の目傘
 お借りして、そのままになつて居ります。よい機に、おとど
 け致します

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様
 府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓、

帰りました。〔全集〕 → 帰りました

(改行) やつと三十枚〔全集〕 → (改行なし)

書きました。〔全集〕 → 書きました

書かなければいけません。〔全集〕 → 書かなければいけません

(改行) 世情が〔全集〕 → (改行なし)

くるしくなりました。〔全集〕 → くるしくなりました、

御伺ひいたします。〔全集〕 → 御伺ひいたします

記念写真、〔全集〕 → 記念写真、

それから先夜、〔全集〕 → それから、先夜、

おとどけ致します。〔全集〕 → おとどけ致します
 【フット】

もう六十枚くらゐ——「風の便り」を指す。

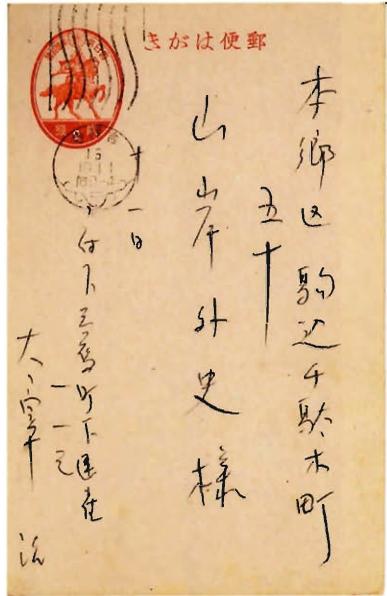
阿部——阿部合成、青森中学の同級生で洋画家。山岸とは太宰の
 家で知り合い、その後井伏鱒二宅でも出合い意気投合する。

昭和16年(1941年)10月11日(日にち直筆、消印)

拝見。

先日は、ごご失礼。おゆるし下さい。
ただ、まは、御本を、たき
ありがたうございませした。けふ、こ
から、拝見するつもりであります。
たのしみです。
また、一仕事すまいましたら、本郷へ
遊びに行きたいと考へて居ります。
では、ごごゆつくり。
あ。

社内にもよろしくお知らせします。



拝啓。

先日は、いろいろ失礼。おゆるし下さい。ただいまは、御本をいただき、ありがとうございます。けふ、これから拝見するつもりであります。

たのしみです。

また一仕事すみましたら、本郷へ遊びに行きたいと考えて居ります。

では、いづれゆつくり。

御内にもよろしく願ひます。

不一。

本郷区駒込千駄木町五十 山岸外史様
 十一日 府下三鷹町下連雀一三三 太宰治

【校異】

拝啓〔全集〕 → 拝啓。

〔改行なし〕 不一。〔全集〕 → 〔改行〕

【フート】

御本——この年、十月までに山岸外史は、『煉獄の表情』（朱雀書林、五月）、『希望の表情』（実業之日本社、六月）、『新イソップ物語』（主婦之友社、八月）を上梓している。そのいずれかか。